

認定NPO法人

市民セクターよこはま

■ 事業報告 2015 ■

2015年度（2015年4月～2016年3月）



～誰もが自分らしく暮らせるまち～

一人ひとりの市民が主人公として、
幸せと豊かさを実感できる市民社会の実現を目指して...

【 2015年度事業報告書 目次 】

◆ 2015年度を振り返って	1
◆ 運営に関する事項（法人総務）	3
◆ 事業に関する事項	
（支援センター部門）	
● 横浜市市民活動支援センター運営事業 ※別紙「事業報告2015」参照	6
● にしく市民活動支援センター運営事業 ※別紙「事業報告2015」参照	6
（地域支援部門）	
● よこはま食事サービス連絡会	7
● コミュニティ・スペースを拠点としたまちづくり事業	8
● よこはま地域づくり大学校	10
● まちかどケア事業	19
● 第三者評価事業	22
● ヨコハマ市民まち普請事業	24
● コミュニティづくり支援事業	25
● 法人ホームページ リニューアル	28
◆ 資料編	
● 会員数の推移	29
● 収入額の推移と内訳	29
● 市民セクターよこはま沿革	30
● 2015年度の役員・事務局スタッフ	31

2015 年度を振り返って

理事長 中野 しずよ

～地域支え合いの姿が変わっていく過渡期にあって～

介護保険のしくみが大きく見直され、高齢社会のピークとなる 2025 年まで、後 10 年をきりました。そのとき、65 歳以上の 5 人に 1 人の方が認知症を発症していると予想されています。

市民活動のスタイルも変化の兆しが見えてきました。グループ・団体で始めようとする方だけでなく、個人のプライベートな空間や取り組みを「開く」ことで新しい支え合いにつながっていくスタイルや、コミュニティカフェなどで集う中から、個人同士がゆるくつながって、新しい取り組みに発展していくスタイルなど、「先に組織ありき」ではない新しい活動のかたちが見えてきました。

一方で長年組織の一員として仕事や活動をしてきた 70 代などのプラチナ世代は、積み上げてきたキャリアと、その年齢の特性にふさわしい場があれば、子どもたちなどを対象にまだまだ活躍していけることもわかってきました。

いよいよ「深刻化しつつあるように感じられる社会状況」と「活動スタイルの変化の兆し」、また「積み上げてきた人生の集大成としてのプラチナ世代の活躍の場づくり」、それらをうまくとらえて、地域支え合いの新しいかたちを後押ししていく、2015 年度は、そのような年となったと感じています。

例えば、横浜市市民活動支援センター事業として行う「つながりのまちづくりフォーラム」や「情報紙アニマート」では、上記のような地域支え合いの新しいかたちをさまざまなバリエーションで、発信していきました。

法人事業としては、「認知症カフェフォーラム」を開催し、約 230 名の方に参加いただくとともに、認知症カフェを運営していく上での考え方、認知症の方や家族の方の気持ちに寄り添うだけでなく、「暮らしの課題解決につながる場のつくり方」などを発信することができました。

しかし地域支え合いの新しいかたちも、変化の途上であり、紹介できる事例もそれほど多くはありません。お題は、「一人ひとりのライフスタイルを大事にしつつ、多くの人が関わるができる地域支え合いの新しいかたちとは？」だと感じています。引き続き、活動現場に足を運び、感度を高くして、よくお話を聴き、より良い方向への変化を加速していけるよう力を尽くしたいと考えます。

泉一弘さんのこと

最後になりましたが、当法人副理事長の泉一弘さんが、2015 年永眠されました。2002 年からの、初代の横浜市市民活動共同オフィス責任者をはじめ財務担当役員と

して、13年の長きに渡り、当法人を支えてくださったお一人です。地元戸塚区ドリームハイツでは、「ふらっとステーションドリーム」や「深谷台地域運営協議会」の運営にもご尽力されていました。

2015年10月法人として、「泉さんを偲ぶ会」を開催しましたが、泉さんの「ひとを癒し包み込む力」や「ビジョンをもってやり遂げられる力」、「学び続ける姿勢」を改めて知ることとなりました。これら泉さんの生きざまから、学ばせていただいた大事な宝と、「自分たちのまちは、自分たちで創る」まちづくりへの想いを引き継ぐ覚悟を新たにしつつ、ご冥福を祈りたいと思います。

運営に関する事項（法人総務）

(1) 会員

● 会員数

2015年3月31日時点：146

【正会員 131】 団体 51/個人 80、【準会員 8】 団体 4/個人 4、【賛助会 7】 団体 2/個人 5

↓

2016年3月31日時点：138

【正会員 125】 団体 48/個人 77、【準会員 7】 団体 3/個人 4、【賛助会 6】 団体 2/個人 4

● 社員総会（会員総会）

日 時：2015年5月23日（土）10:00～12:00

会 場：横浜市市民活動支援センター4階 ワークショップ広場

参加者：正会員：79名（うち書面表決 10名、委任状 42名）

第 13 回 通常総会

※各担当者による事業説明会を実施。

(2) 会議

● 理事会

開催日：

2015年4月14日、7月29日、9月2日、10月28日、11月25日

2016年1月20日、2月23日、3月29日

議 題：総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、横浜市支援センター事業

にしく支援センター事業、次年度組織体制、役員人事、職員の採用・給与・賞与、等

(3) 各団体・行政機関等の委員の受任

行政や社会へ提言、市民参画の拡大のため、さまざまな団体等の委員を引き受けています。

〔横浜市・健康福祉局〕

- ・ 横浜市社会福祉審議会 委員（中野）
- ・ 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉有償移動サービス運営協議会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉有償移動サービス運営協議会 委員（泉）
- ・ 横浜市福祉サービス第三者評価推進委員会 委員（吉原）

〔横浜市・市民局〕

- ・ 横浜市男女共同参画センター指定管理者選定評価委員会 委員（泉）

〔横浜市・政策局〕

- ・ 横浜市男女共同参画審議会 委員（泉）
- ・ 横浜市男女共同参画審議会 委員（齋藤）

〔横浜市・こども青少年局〕

- ・ 横浜市親と子のつどいの広場事業選定委員会 委員（中野）

〔横浜市・温暖化対策統括本部〕

- ・ 横浜市環境未来都市推進会議 委員（中野）

〔横浜市・各区役所〕

- ・ 横浜市青葉区福祉保健活動拠点 指定管理者選定委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市青葉区地区センター 指定管理者選定委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市青葉区ユートピア青葉 指定管理者選定委員会 委員（中野）
- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 委員（中野）
- ・ 横浜市港南区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員（泉）
- ・ 横浜市港南区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会 委員（泉）
- ・ 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員（山野上）

〔横浜市社会福祉協議会〕

- ・ 横浜市社会福祉協議会企画委員（中野）
- ・ 横浜市社会福祉協議会よこはまふれあい助成金運営委員会 委員（吉原）
- ・ 横浜市社会福祉協議会「福祉よこはま」編集委員（山野上）
- ・ 横浜市社会福祉協議会福祉ボランティア・市民活動部会 委員（関尾）

〔その他〕

- ・ かながわ福祉サービス振興会 理事（中野）
- ・ 男女共同参画公募事業 選定委員会 委員（中野）
- ・ 横浜移動サービス協議会 評議員（泉）
- ・ IDECコミュニティビジネス助成金 審査員（吉原）
- ・ 横浜市芸術文化振興財団ヨコハマアートサイト選考委員（石井）
- ・ 神奈川県住宅計画課 かながわ住まい・担い手ネットワーク 委員（石井）
- ・ 男女共同参画センター横浜市民運営協議会 委嘱委員（井上）
- ・ 公益信託ひらつか市民活動ファンド 運営委員（東樹）
- ・ かながわ協働推進協議会および、条例検討部会委員（東樹）
- ・ 第3期西区地域福祉保健計画ボランティア・市民活動分科会メンバー（東樹）
- ・ 地域活動ホーム「ガッツ・びーと西」運営委員（東樹）

(4) 講師等の受任

- ・ 平成27年度横浜市新任課長・係長・専任職全体研修「協働について考える」講師（中野）
- ・ 旭区「みな元気！旭ステーション」講師（中野）
- ・ 横浜市社協「よこはま地域福祉フォーラム」シンポジスト（中野）
- ・ 横浜市自治労ケースワーカー勉強会「貧困の子どもたち」講師（中野）

- ・ 瀬谷区「在宅サポートネットワーク 第1回瀬谷区地域ケア会議」ファシリテーター（中野）
- ・ 西区 第4地区社協研修「地域の中で在宅介護を無理なく続けるために」講師（中野）
- ・ NEXT50主催 横浜まちづくり学生会議第1回シンポジウム パネリスト（吉原）
- ・ NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター主催 NPO 法人基礎講座 講師（吉原）
- ・ 市民局地域活動推進課主催「協働研修基礎編」講師 3回（吉原）
- ・ 沼津市社会福祉協議会・地区社協連絡協議会主催 公開福祉講演会 講師（吉原）
- ・ 新市庁舎の活用を考えるシンポジウム 意見提案（吉原）
- ・ 青葉区主催 区民施設交流会 講師・ファシリテーター 2回（吉原）
- ・ 西区地域づくり大学校第1回 講師（吉原）
- ・ 金沢区地域づくり大学校第1回 講師（吉原）
- ・ 神奈川区地域づくり大学校第1回 講師（吉原）
- ・ 横浜市市民活動支援センター主催 中間支援力アップ研修 講師（吉原）
- ・ 市民局地域活動推進課主催「協働研修実践編」講師 2回 ファシリテーター1回（吉原）
- ・ 市民局・横浜市市民活動支援センター主催 NPO 法人設立講座 講師2回（吉原）
- ・ 横浜市市民活動支援センター主催 プロNPO 講座第4回 講師（吉原）
- ・ 市民福祉団体全国協議会主催 介護保険改定シンポジウム神奈川研修 講師（吉原）
- ・ 横浜市市民活動支援センター主催 つながりのまちづくりフォーラムコーディネーター（吉原）
- ・ 都筑区主催 認知症人材育成講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 静岡県ボランティア研究集会第一分科会 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 金沢区主催 地域の団体交流会 ファシリテーター（吉原）
- ・ 泉区市民活動支援センター主催 NPO 法人設立講座入門編 講師（吉原）
- ・ 当法人主催 認知症カフェフォーラム コーディネーター（吉原）

(4) 他団体の会員として

下記の団体に会員として参画しています。

- ・ 認定 NPO 法人 日本 NPO センター
- ・ 認定 NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- ・ 認定 NPO 法人 市民福祉団体全国協議会
- ・ 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
- ・ 公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
- ・ NPO 法人 かながわ外国人すまいサポートセンター
- ・ NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター

事業に関する事項

【 支援センター部門 】

■ 横浜市市民活動支援センター運営事業

(横浜市市民局市民活動支援課との協働事業)

別紙「2015（平成 27）年度横浜市市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

→<https://opencity.jp/yokohama/fckeditor/output/1/File/2015houkoku.pdf>



【左】 NPO 実務者向け講座「PRONPO2015」より



【右】 中間支援力アップ研修より

【右】 神奈川県と協働で開催した
「企業・NPO・大学 パートナシップミーティング」
@富士通エフサス みなとみらい Innovation & Future
Center



■ にしく市民活動支援センター（にしとも広場）運営事業

別紙「2015（平成 27）年度にしく市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

<http://shimin-sector.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/caee19e085423cf2cfb5e81952e2d7be.pdf>



【左】「歩いてみよう！つながりマップー独自拠点を歩く編ー」
コミュニティサロン「ばあばの家あさだ」より

【 地域支援部門 】

■ よこはま食事サービス連絡会

成果と課題

● 成果（経緯）

市内の食事サービスグループ同士の連携や情報共有、学びあいの場としての活動を行いました。2000年に始まった連絡会は、開始以来ほぼ月1回の開催を続けています。年に2回実施する食事サービスを考えるつどいは、食事サービスグループの関心の高い介護保険の改正について学んだり、現在活動している団体が長く活動を続けるモチベーションをあげるための意見交換をしたり、東京ガスが行っている「エコ・クッキング」講座を受講し、工夫次第で料理を通したエコができることを学び、昨年のお魚編について野菜ソムリエによる食理解：野菜編を実際の調理をしながら学びました。

さらに、2012年度から地域で「食」を通してまちづくり等を行っている現場を訪問し、主催者の話を聞き、課題や問題点を共有する新しい試みを始めました。2015年度は、よこはま食事サービス連絡会のメンバーでもある保土ヶ谷区の「新桜ヶ丘パートナー」の事務所とサロンまどかを訪問しました。地域の中の居場所として毎日開いているサロンは、とても大きな意味を持つ食や趣味の場としても活用されていました。地域の課題解決や今後の活動を継続・発展させていくためのヒントがたくさんありました。

2016年度から新オレンジプランの中でも取上げられているサロンの開設などについて更に勉強を重ねていきたいと思っています。

● 課題

多くの食事サービス団体の若い担い手の不足=高齢化が問題となっています。これからますます必要となる地域での高齢者への見守りとしての配食サービスや会食、またはそれに代わる新たなスタイルの活動が展開できるように、考えていく必要があります。

事業の概要と実施したこと

市内の食事サービスグループ同士の連携や情報共有、学びあいの場としての活動を行いました。

1) 定例会：月1回実施

2) 食事サービスを考えるつどい：2回実施

○「知って、活かそう！エコ・クッキング」

講師：東京ガス エコ・クッキング担当

(2015年11月21日 於：東京ガス横浜ショールーム / 参加者：42名)

○食理解（野菜編）「旬の野菜を上手においしく調理するには…」

(2016年3月12日 於：JAクッキングサロン ハマッツ子 / 参加者：24名)

3) 現場訪問：1回実施

○ 保土ヶ谷区「新桜ヶ丘パートナー」(2015年7月28日(火) / 参加者：5名)



【左：現場訪問】



【右：食事サービスを考えるつどいの様子】

■ コミュニティ・スペースを拠点としたまちづくり事業

コミュニティ・スペースを拠点として、地域における認知症ケアの取組みをしている方たちとともに、「認知症になっても住み慣れたまちで本人も家族も安心して暮らせるようなまちづくり」をめざしています。

情報・意見交換の場づくりや当法人が創設した「市民まちづくり応援ファンド」による助成を通じて、支援を行っています。

成果と課題

● 成果（経緯）

昨年度に開催した、拠点で活動している方たちによる情報交換会で、認知症カフェの取組みについて情報収集・共有していくことが今後の課題に挙げられました。

それを受けて今年度は、当初、認知症カフェに関する講座を計画していましたが、市内で取り組んでいる（取り組もうとしている）方が多いことから、大規模なフォーラム形式で学び合いの機会をつくることとしました。

定員 200 名を超える申込みがあり、関心の高さを伺うことができました。参加者においては、基調講演・実践報告を通じて、住民による主体的な取組みの大切さや、医療・関連機関との連携の重要性を感じ取られた方が多く、これからの取組みに向けてのきっかけを提供することができました。

● 課題

認知症カフェをテーマにしたフォーラムを通じて、住民を主体とした地域における認知症ケアの取組みに対して関心が高まりつつあります。今後は、「自分たちの地域でも取組みたい」「今の取組みをさらに進化させたい」という方たちによる‘学び合いの場’や‘ゆるやかなネットワーク’が必要になると考えられます。

事業の概要と実施したこと

1) フォーラム「もっともっと認知症カフェ」の実施

認知症カフェをこれから始めようと考えている方、既に取り組んでいる方、支援に携わっている方を対象に、認知症カフェについて理解を深めるとともに、実際に取り組むうえでの手法や課題について学び合うことを目的としてフォーラムを開催しました。

【日時】2016年3月18日（金）13:30～16:30

【会場】横浜情報文化センターホール

【参加者数】198名（登壇者、スタッフを含む参加者数 約230名）

【プログラム】

基調講演「認知症カフェとは」 高橋 正彦 氏（クリニック医庵たまプラーザ院長）

実践報告 事例① 【NPO法人による取組み】さくらカフェ：オレンジデー

報告者：岡本 溢子 氏（NPO法人さくら茶屋にししば理事長）

大月 美登里 氏（同法人 理事）

事例② 【町内会による取組み】土橋カフェ

報告者：老門 泰三 氏（土橋町内会 副会長）

事例③ 【京都の取組み】京都府における認知症カフェの取組みより

報告者：川北 雄一郎 氏（京都認知症カフェ連絡会事務局長）



2) 「市民まちづくり応援ファンド」による助成

前年度の寄付金より抛出し、今年度当法人が創設した「市民まちづくり応援ファンド」のうち、用途を指定されていないものを、2団体（「ひばり会（下和泉住宅自治会）」「ワーカーズコレクティブ コミュニティーコーディネーターここ」）に助成しました。

■ よこはま地域づくり大学校（横浜市各区役所等との協働事業、共催）

■ 西区地域づくり大学校

	開催日時	内容	
第1講	9月12日(土) 9:30-13:30 【会場】 西区役所会議室	「地域づくりの5つのステップ」を知ろう <ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・講義・共有ワーク ・ランチ交流会(実費負担)&相互インタビュー 山中研氏(福祉保健課事業企画係 係長) 吉原明香氏(認定NPO法人市民セクターよこはま事務局長)	エリアごとの地域特性などと合わせて、地域で活動するための「5つのまちづくりのステップ」を学びました。 相互インタビューでは、地域で気になっていること、地域大から持ち帰りたいことを共有しました。
第2講	9月20日(土) 9:00~12:30 【会場】 にしく市民活動支援センター “にしとも広場”	まち歩きで発見「地域の魅力と課題」 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・まち歩き ・グループワーク 「まち歩きのふりかえりとマップづくり」 山路清貴氏(まちづくり]デザイナー)	まちを捉える視点について講義で確認した後、チームに分かれてルートを決め、まち歩きを行いました。 受講生同士が自分の住んでいる地域を案内し、一緒に回ることで多くの発見がありました。
第3講	11月8日 (日) 9:30-16:30 【会場】 すすき野たまりんば(青葉区) 高山自治会(都筑区)	現場へ飛び出す！フィールドワーク① <ul style="list-style-type: none"> ・すすき野たまりんば 「これからはじめる交流の場づくり」 ・高山自治会 「若い力が活躍する自治会の取組」 ・車座トーク：一問一答 ・バス内より、高山自治会の紹介 	すずき野たまりんばでは、自主財源で実施するサロンの立ち上げ期のお話しを伺いました。 高山自治会では、若い世代の住民が輪番制で行う自治活動について伺いました。役員の方4名にも参加いただき、車座トークでは、実際の活動について率直に聞く機会となりました。
第4講	11月28日(土) 9:30-15:00 【会場】 湘南八景自治会(金沢区)	現場へ飛び出す！フィールドワーク② <ul style="list-style-type: none"> ・事例紹介① 「湘南八景自治会の概要」 「コミュニティサロンほっこりができるまで」 ・まち歩き ・事例紹介② 「お助けマン」 「ほっこりの日々の運営・宵の口サロン」 ・レッツ一問一答！ 	地域で支える仕組みとして、「お助けマン」をはじめとする、湘南八景自治会の活動を伺いました。 活動の概要を伺った後、実際に自治会内を歩き、公園での活動や小学校との連携の様子を見学しました。
第5講	1月23日(土) 9:30-15:00 【会場】 西区役所会議室	自分の地域で実現したい「夢プラン」づくり <ul style="list-style-type: none"> ・座学「まちづくり支援制度を知る」 (西区社会福祉協議会、西区区政推進課) ・ワーク「私の『夢』プランを考える」 ・講義「『夢』プランを実現させるポイント」 ・個人ワーク、グループワーク・全体発表 山路清貴氏(まちづくり]デザイナー)	これまでの講義で学んだことをもとに、自分の地域で実現したい「夢プラン」を作成しました。 関心分野ごとにグループを設定し「夢プラン」を共有したため、テーマごとに話し合いを深めることが出来ました。また、代表者3名が全体で発表し、普段関連の薄い分野の課題などについても共有することが出来ました。

第 6 講	2月13日(土) 14:00-17:00 【会場】 にしく市民活動 支援センター “にしくとも広 場”	[卒業式]夢プラン発表会 ・卒業発表「みんなの『夢』プラン」 ・卒業式 ・茶話会 中野しずよ氏 <small>(認定 NPO 法人市民セクターよこはま理事長)</small>	受講生全員が、自分の夢プランを発表し、それぞれの思いやアイデアを共有することが出来ました。 大久保区長より1人ずつ全員に卒業証書が手渡されました。その後、サポーターズや地域の町内会長より応援メッセージをいただきました。
-------------	---	--	--

●概要

第4期西区地域づくり大学校は、西区役所、認定 NPO 法人市民セクターよこはま、にしく市民活動支援センターの三者協働で企画、運営を行っています。平成27年9月から平成28年2月の間、全6回で実施しました。

今年度は、21名の応募がありました(うち、在住者18名、在勤者3名)。今年度の特徴として、20代3名、30代4名、40代4名と、若い世代の参加が多くありました。また、活動を始めるヒントを見つけたい、これから活動を始めたいという方も全体の半数となりました。

●成果

1)等身大での学び合い

第2講のまちあるきで地域に住む受講生がグループを案内するなど、それぞれが学びの材料を提供し合うような場面が多々見られました。受講生からは「全6回に多くの出会いがあり、毎回ワクワクしながら参加していた自分がいました。…本当に有意義な学び舎でした。」などの意見がありました。

2)地域で活動する人同士のネットワークづくり

「講座後のつながりを今後も生かしていきたい」という意見より、第4期のOBOG会が発足しました。また、受講生同士のつながりからお互いの活動を見学に行くなど、自主的に活動をすすめている様子も見受けられました。

3)地域大の縦のつながりづくり(サポーターズ(卒業生)の活躍)

地域大(第3期)のOBOG会に第4期の運営サポートを依頼し、8名の方に立候補いただきました。地域で活動する当事者として等身大のアドバイスをを行う場面が多くありました。



第2講 まちあるきの振り返り



第3講 高山自治会での車座トーク



第6講 卒業式

●課題

- ・講座期間だけでなく、卒業後の受講生のサポートの仕組みづくりの強化を検討する必要があります。
- ・地域ごとの課題に対応して活動を進めていくための、西区の地域福祉保健計画（第3期「にこまちプラン」）の策定内容や、その管轄課との連携を進める必要があります。

■ 泉区地域づくり大学校

	開催日時	内容	
第1講	8月29日(土) 10:00~14:30 【会場】 泉区役所4階会議室	開講式・講義・交流 ・講義「地域づくりの5つの手順」 ・「まち歩きとマップづくり」に向けたレクチャー 講師：内海宏氏（まちづくりコーディネーター） 講師：佐久間幹雄氏（泉区まちづくりみらい塾塾長）	佐久間塾長による「地域づくりの5つの手順」の講義があり、その後、泉区のまちづくりの事例とそのポイントを、まちづくりコーディネーターの内海宏氏から伺うとともに、まちづくりの第一歩“まちを知る”を「マップづくり」の事例から学びました。事例を聞き、マップづくりレクチャーを受けることで、第2講以降の講義・現地見学に向け意識を高める事ができました
第2講	9月19日(土) 9:00~15:00 【会場】 泉公会堂第1会議室ほか	まち歩き初めの一歩 ・区内方面別まち歩き ・グループワーク（マップづくり） 「まち歩きのふりかえりとマップづくり」 吉原明香氏（認定NPO法人市民セクターよこはま事務局長）	地元の方の案内で区内を歩き、まちの特色や泉区ならではの魅力をマップに記入し、「まちを知る」手法を学び合いました。まちを様々な視点から捉えた後、マップづくりに挑戦しました。
第3講	10月24日(土) 9:30~16:00 【会場】 緑園自治会館ほか	現地見学会 Part1（区内） ・リレートーク「次世代が育む地域づくり」 ・泉区活動現場めぐり／課題解決に向けたグループワーク	リレートークでは、環境活動や子どもが活躍するまちづくり、地域の交流など、実践者（泉区まちづくりみらい塾卒業生等）との意見交換を通して、経験と工夫を学びました。 活動現場めぐりでは、泉区なら「ここを知っておきたい」という活動現場を巡り、活動の様子を見学しました。
第4講	11月21日(土) 9:00~17:00 【会場】 今宿ヶアブラザ 長屋門公園	現地見学会 Part2（区外） ・旭区今宿地域ヶアブラザ「くつろぎカフェ」の取り組み ・瀬谷区阿久和北部地区の取り組み ・グループワーク（気づきの共有）	旭区「くつろぎカフェ」では、事例を通じて、人と人とのつながりの場づくりや、魅力的な企画の作り方を学び合いました。見守り合いシステムを構築し、安心して暮らせる地域づくりを推進する瀬谷区阿久和北部地区の事例を学び、気づきを共有することができました。
第5講	1月23日(土) 9:30~15:00 【会場】 下和泉住宅自治会館	現地見学会 Part3、マイプラン作成（演習） ・講義：下和泉住宅自治会の取組から、地域の課題解決方法を学ぶ ・ワーク：「私の『夢』プランを考える」 ・グループワーク・全体発表 講師：佐久間幹雄氏（泉区まちづくりみらい塾塾長）	講義では、多様化する課題を整理して、優先順に取り組み、解決するまでの知恵合わせを、事例を交えて学びました。その後、自分の地域で実行したい取り組みについて「マイプラン」を作りお互いにアドバイス・意見交換し合いました。受講生同士の相互アドバイス・意見交換により、多様な考え方を学びながら実際に活動するための道筋を描くことで、充実したプランがいくつも生まれました。

第 6 講	3月12日(土) 14:00~17:00 【会場】 泉区役所4階会議室 17:00~18:30 卒業記念懇親会	[卒業式]マイプラン発表 ・卒業発表「マイプラン」 ・卒業式 ・懇親会 中野しずよ氏(認定NPO 法人市民セクターよこはま理事長)	マイプランの発表を通して、これから活動に取り組んでいこうという意欲を高めることができました。 懇親会の実施により、受講生同士がさらに親睦を深め、泉区まちづくりみらい塾終了後までつながる受講生同士のネットワークを構築することができました。
-------------	--	--	---

●概要

現場体験の実施などの現場性を重視した講座内容

自分の住む地域の困りごとを「何とかしたい!」と思っている方(自治会・町内会の役員、地域活動の担い手、地域活動に興味関心のある方)のための半年間の研修プログラムである本事業は、今年が4年目となります。泉区まちづくりみらい塾は、地域課題に取り組んでいる自治会・町内会の事例見学や講座・グループワークを通して学び合い、地域のさまざまな問題を協力し合いながら解決していく「自治の力」を身につけるためのカリキュラムを実施しました。

●成果

- ・講座前にタイムスケジュールや役割分担の確認のための詳細な打ち合わせを行い、全体的な流れの共通認識、役割認識ができており、そのため当日も状況に合わせて柔軟に対応できました。
- ・実践者が多かったためか、受講者同士の相互アドバイスが有効だったという意見が学びのまとめで多くみられました。
- ・最終講のアンケートにおいて、自らのまちは自分たちで良くしていくという住民主体の考え方が多くの受講生に浸透したことが確認でき、講座のねらいが達成できました。



●課題

参加者の年齢層が高く、担い手である層(50代)の参加が少なかった為、多様な地域の方の地域づくり大学校への参加や、受講生の地域とのつながりづくりのためにも、より多くの自治会町内会の役員に地域づくり大学校を知っていただく必要があります。

■ 金沢区地域づくり大学校

	開催日時	内容	
第1講	9月5日(土) 9:30-14:30 【会場】 いきいきセンター 3階会議室	「まちを知ると、もっと好きになる①」 <ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・講義・共有ワーク ・ランチ交流会(実費負担) & 相互インタビュー 山路清貴氏(まちづくりコーディネーター) 吉原明香(認定NPO法人市民セクターよこはま事務局長)	開講式、自己紹介ワーク後は、市民セクターよこはま吉原事務局長による「地域づくりの5つの手順」の講演。続いて山路清貴氏による講演「まちを知ると、もっと好きになる」というテーマで金沢区の歴史とまちづくりの変遷についてお話しいただき、第2講以降の講義・現地見学に向け意識を高める事ができました。
第2講	9月26日(土) 9:00~15:00 【会場】 神奈川県立金沢文庫 地下大会議室	「まちを知ると、もっと好きになる②」 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・まち歩き ・グループワーク 「まち歩きのふりかえりとマップづくり」 山路清貴氏(まちづくりコーディネーター)	金沢南部地区連合町内会の鈴木会長はじめ、地域の方々による案内で金沢南部(称名寺周辺)地区を「まち歩き」し、まちの特色や魅力を発見しました。その後、歩いてわかったことをマップに記入し、「まちを知る」手法を学び合いました。
第3講	11月7日(土) 9:30-16:00 【会場】 地域の活動現場 (バスツアー)	「自分たちの手で行うまちづくり①」 【金沢区編】 <ul style="list-style-type: none"> ・瀬賀先東部町内会 ・湘南八景自治会 ・高舟台自治会 	約1,500世帯規模の高舟台自治会と、約300世帯規模の瀬ヶ崎東部町内会の取組を通して、規模の異なる自治会・町内会が「自分たちの手で行っている」防災や福祉、見守り合いの手法について学び合いました。
第4講	12月5日(土) 9:00-17:00 【会場】 地域の活動現場 (バスツアー)	「自分たちの手で行うまちづくり②」 【お隣の区編】 <ul style="list-style-type: none"> ・港南区 南平台自治会 「防災の取組」 ・楽田の郷 「サロンの運営」 ・日野第三町内会サポーターズ 「担い手の登用」 	南平台自治会は要支援者リストに頼らず、班ごとに分ける事で災害時の助け出しを実現した事例を、実際の現場をみながら学びました。 楽田の郷では個人宅の離れて週三日のサロンを実施しており、実際に利用者の方を交えて現場の声を聞く事で、場の大切さを体感することができました。
第5講	1月16日(土) 9:30-15:00 【会場】 金沢区役所3階 2・3号室	ワークショップ 「地域活動のプランを考える」 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク「私の『夢』プランを考える」 ・個人ワーク、グループワーク・全体発表 山路清貴氏(まちづくりコーディネーター)	自分の地域で実行したい取り組みについて「夢プラン」を作る作業をし、お互いにアドバイス・意見交換しました。マイプランの作成では、受講生同士の相互アドバイス・意見交換により、多様な考え方を学びながら実際に活動するための道筋を描くことで、充実したプランがいくつも生まれました。
第6講	2月17日(土) 14:00-17:00 【会場】	[卒業式]夢プラン発表・団体交流会 <ul style="list-style-type: none"> ・夢プラン発表 ・卒業式 ・地域の団体交流会 ・懇親会 	マイプランの発表を通して、これから活動に取り組んでいこうという意欲を高めることができました。 また、団体交流会と懇親会の実施により、受講生同士、夢プラン応援隊、金沢区内で活動する地域団体と親睦を深め、卒業後までつながるネットワークを構築することができました。

●概要

現場体験の実施などの現場性を重視した講座内容

自分の住む地域の困りごとを「何とかしたい!」と思っている方(自治会・町内会の役員、地域活動の担い手、地域活動に興味関心のある方)のための半年間の研修プログラムである本事業は、今年が2年目となります。金沢区地域づくり大学校は、地域課題に取り組んでいる自治会・町内会の事例見学や講座・グループワークを通して学び合い、地域のさまざまな問題を協力し合いながら解決していく「自治の力」を身につけるためのカリキュラムを実施しました。

●成果

・現場から地域課題に対する知見を深める

自治会・町内会、NPO、行政、学識経験者など、多様なメンバーによる人材のネットワークを活かして、テーマ毎に適切な講師や現地見学先を選定し、講座を開催する事ができました。

また、区民と区役所職員がともに学び合うことで、地域課題に対する知見をお互いに深めることができ、受講生同士のつながりの形成や、区民と区役所との信頼関係を深める場ともすることができました。

・当事者意識・行動意欲を高める

同じ区内や、隣の区で、自治の力をつけている地域づくり先進地域に現地見学会に行くことで、「地域でこれだけのことができる」という認識を共有することができました。



●課題

受講生の年齢は、70代が18人、80代が3人で、60代以下は7名に留まりました。

- ① 単位町内会の会長に直接ダイレクトメールをお送りし、町内会の若手メンバーを推薦、または受講を勧めてもらう。
- ② 金沢区社会福祉協議会とも共催しているので、地区社協の役員に若手のメンバーを推薦してもらうよう働きかける。
- ③ 青少年指導員、スポーツ推進委員、保健活動推進員などの委属委員にダイレクトメールを送る。
- ④ PTAやおやじの会、子ども会の役員やOBに周知するなど、主に40代~50代にターゲットを絞った募集方法を検討する などの必要があると思われます。

■ 神奈川区地域づくり大学校

2015 年度に新たに始まった、地域づくり大学校です。どの地域でも課題になっている、自治会町内会等の地域組織の担い手不足をテーマに実施しました。神奈川区役所区政推進課と神奈川区連合町内会自治会連絡協議会との三者協働です。

成果と課題

● 成果（経緯）

自治会町内会の担い手不足をテーマにしていたこともあり、連合町内会自治会連絡協議会が協働相手にもなったこともあって、参加者の募集は、単位自治会町内会長から推薦があった方を連合を通じて出してもらおうという形をとりました。周知に時間はかかりましたが、思った以上に若い方の推薦が多く、また、卒業式には推薦した町内会長が見に来てくれたりと、推薦した町内会長にも地域づくり大学校のことを知ってもらい、推薦者を応援して頂く機会になりました。引き続き、卒業生が描いた夢プランを実現につなげる応援者にもなってもらえるのではないかと期待しています。

また、自治会町内会推薦では枠が埋まり切らなかったこともあって、地域子育て支援拠点にも協力を仰ぎ、参加者を募集しました。こちらからは、多くの若手女性が参加していただくことになり、自治会町内会推薦の方、地域でテーマ型の活動をする方が一緒に学び合える、様々な視点からの意見を聞き合う場につながりました。

参加者それぞれが既に何かしらの活動をしている方が多かったせいか、夢プランも単なる夢プランではなく、実現可能なものが多く、卒業生の今後も楽しみです。

● 課題

卒業生が夢プランを実現するためには、複数の応援者が必要ですが、身近な相談相手となりうる地域ケアプラザや区社会福祉協議会への呼びかけが足りなかったと感じています。ケアプラザについては 1 名が全回出席、それ以外の 5 名は単発で参加してくださいました。区社会福祉協議会には、次年度はできるだけ早い段階でお声掛けし、できれば企画にも入っていただく形で取り組むことが、必要だと考えています。

事業の概要と実施したこと

2015 年 11 月 1 日（日）～2016 年 3 月 6 日（日） <全 6 回>

参加者：51 名

市民 39 名（うち、自治会町内会推薦 18 名）・ケアプラザ職員 6 名（うち、1 名は全回出席）
行政職員 6 名（区長及び地域振興課職員）

卒業 34 名（うち、皆勤賞 9 名） ※卒業要件：夢プランの提出、皆勤賞：全回出席

第1講 開校式「地域づくりの5つの手順」を学ぶ

日時： 2015年11月1日(日)9:30 ~ 13:30

プログラム:

- 開校式・オリエンテーション
- 「地域づくりの5つの手順」 吉原 明香
- 神奈川区をもっと知ろう
 - ・「歴史で見る神奈川区」 NPO 法人神奈川区いまむかしガイドの会
 - ・「データで見る神奈川区」 神奈川区役所区政推進課
- ランチ交流会
- グループワーク ~今、気になる地域のことを出し合ってみよう~



第2講 若手住民と行った減災の仕組みづくり【現地訪問】

日時： 2015年12月6日(日)10:00 ~ 15:30

プログラム:

- グループごとにまち歩き
- 「若手住民とともに行った減災の仕組みづくり」 片倉町大丸町内会
- グループワーク

第3講 ~区外の事例に学ぶ~若手が参加しやすい仕組みづくり

日時： 2015年12月6日(日)14:00 ~ 17:30

プログラム:

- 区外の事例に学ぶ リレートーク
 - ・「つながりの第一歩」 西区第6地区連合町内会
 - ・「地域の活性化の為に」 都筑区高山自治会
 - ・「白百合台自治会 青年団の活動紹介」 泉区白百合台自治会
- グループワーク
 - テーマ①それぞれの地域での若手の活動状況と課題を出し合おう
 - テーマ②Let's 一問一答 ~ゲストに質問してみよう~
 - テーマ③「こんなことならできそう・してみたい！」を共有しよう



~ 懇親会 ~

第4講 地域運営のスピリッツ【現場訪問(バスツアー)】

日時： 2016年1月17日(日)9:00 ~ 17:00

プログラム:

<ほっこり>

- 湘南八景自治会について
- 自治会が行っている課題解決型事業について
- グループワーク Let's 一問一答 ~ゲストに質問してみよう

<芹が谷地域ケアプラザ>

- 芹が谷町内会・玉興町内会・東芹が谷町内会紹介



- 会長座談会
- 現役役員のお話
- グループワーク Let's 一問一答 ～ゲストに質問してみよう

第5講 自分の地域で実現したい「夢プラン」作り

日時：2016年2月6日(土)9:30～12:30

プログラム：

- 「夢プランの作り方」まちづくりアドバイザー 山路 清貴さん
- 個人ワーク「夢プランを描いてみよう」
- グループワーク「シェアしてブラッシュアップ！」
- 全体共有（各グループから1名が、全員の前で発表。）



第6講 夢プラン発表会&まちづくりトークライブ

日時：2016年3月6日(日)10:00～12:40

場所：かなっくホール

プログラム：

- 区長挨拶
- 夢プラン発表(卒業発表) 5名
- まちづくりトークライブ「これからの地域づくり～若い人が参加したくなる地域活動とは～」
 コーディネーター：山路清貴さん
 登壇者：塚原泉さん(地域子育て支援拠点かなーちえ施設長)
 松島宗さん(第2講フィールドワーク先)
 金古輝彦さん(卒業生)
- 修了証・皆勤賞授与

～ 卒業パーティ ～



■ まちかどケア事業

(横浜市健康福祉局高齢在宅支援課、横浜市社会福祉協議会との協働事業)

成果と課題

● 成果（経緯）

2015 度も、認知症高齢者ケアの専門職実務者向け研修と、「認知症サポーターキャラバン」の推進の 2 本を柱に事業を進めてきました。その結果、キャラバン・メイトの人数は累計 2,668 人、サポーター数は 183,399 人（2016 年 3 月末時点）と増加し、日々地域に暮らす人々の認知症への理解が進んできていると思われます。テレビ番組やコマーシャルなどを通して認知症が取り上げられることも増え、ますます関心が高まってきていることを日々の問い合わせ電話などで感じています。

介護の専門職を対象とした研修は、昨年同様、入職後日が浅い方を主な対象とした連続講座としました。今回は、研修初日の基調講演に、「長谷川式認知症スケール」の開発者であり「痴呆」から「認知症」への名称変更の立役者である医師・長谷川和夫氏をお招きすることができました。また本研修の周知先を認知症関連サイト等にも広げたこともあって、東京都や栃木県からの参加もあり、定員を超える多くの方が研修に参加されました。長谷川先生の心に響くお話で始まり、現場の第一線で活躍している講師陣による研修は、机上の話ではなく施設での毎日のケアに直結するものとなりました。本人本位の視点をきちんと理解し、介護実務者としての軸に気づくきっかけとして、大変有効な研修であったと思われます。

「まちかどケア推進会議」

本事業は、認知症理解のための講座の講師役であるキャラバンメイトの養成や活動しやすい環境づくり、介護現場における「本人本位の介護の促進」などに取り組んでいますが、現場ネットワークでもある「まちかどケア推進会議」がその推進役となっています。

この会議体は、当事者団体・介護現場専門職・地域包括支援センター・中間支援機関・行政と多様な主体が参画するユニークな体制となっており、当法人が場づくりを担っています。昨年度から区役所と区社協の代表も加わり、更に現場の声が推進会議に活かされるようになりました。それぞれができることを自然に担い合うスタイルが定着し、これからのネットワーク組織のあり方の一つと考えます。

● 課題

「認知症サポーターキャラバン」の推進に関して、2015 年度は「認知症キャラバン・メイト養成講座」を 3 回実施しましたが、受講希望者が募集定員の倍近くにのぼり、関心の高さが現れた結果となりました。区や包括からの推薦の方を優先したため一般の受講希望者には参加していただくことができませんでしたが、新たに 227 名のキャラバン・メイトが誕生しました。

認知症サポーターも、キャラバン・メイトや横浜市各区の積極的な取組の成果により、大幅に増加していますが、その方々の持てる力を活かせていないという状況です。今後、養成したサポーターの力を地域での見守りや家族支援にどう結び付けていくかが課題となっています。

介護実務者研修では、回を重ねるごとに、施設内利用者との関係が改善されたという声が増えていきました。利用者一人ひとりとの距離感が縮まった、笑顔で接することができてから相手も変わった、など、研修で学んだことがすぐに現場に生かされ効果を得ていたことがわかります。しかし、日々利用者に向き合う中で生まれる悩みや課題を乗り越えていくには、自施設内はもとより、他施設と情報共有・アドバイスしあえる関係にあることが必要です。今後は、研修をきっかけとしたネットワーク作りや継続的なフォローアップ研修を検討していきます。

65歳以上の7人に1人ともいわれ、もっとも一般的とも言える病気「認知症」。「まちかどケア」に限らず、さまざまな場面で認知症の方やその家族への理解を進めていく必要があります。

事業の概要と実施したこと

＜本人本位の認知症ケアの多手法の普及、実践者のネットワークづくり・フォローアップ事業＞

- ・本人本位のケアを広める会議（2015年5月、8月、9月、10月）
- ・認知症ケア実務者向け研修

「認知症ケアの基本 ～日々のもやもや、これで解決！～」(全3回講座)
(2015年8月21日、9月18日、10月14日)

第1回 基調講演「認知症ケアに携わる君たちへ」 長谷川 和夫 氏

(認知症介護研究・研修センター名誉センター長、聖マリアンナ医科大学特別顧問・名誉教授)

○認知症ケアの基本 ～人と接するということ～

第2回 ○本人本位の考え方 ～5つの視点～

○本人本位が見える化する ～視点を確認できるツール～

○自分の課題を振り返る ～現場での自分を客観視～

第3回 ○課題解決に向けて ～ケース検討と思考の転換の実践～

○認知症ケアの基本+α ～認知症ケアに必要な知識・技能～

○本人&家族に寄り添い支える力 ～絆を大切に～



＜メイン講師＞

・ 井上 義臣 氏 高齢者グループホーム横浜ゆうゆう

＜スーパーバイザー＞

・ 蓼沼 満里子 氏 グループホーム友宝

・ 富田 克利 氏 小規模多機能施設ゆい青葉

・ 中澤 美如 氏 グループホームあいおい

・ 長本 節子 氏 高齢者グループホーム横浜はつらつ くらき

・ 増子 和子 氏 グループホームあかり

・ 村井 キヌエ 氏 常盤台地域ケアプラザ

・ 村上 美佳 氏 シェフズデイサービス青空



＜「認知症サポーターキャラバン」事業 ―認知症の理解と啓発―＞

- ・まちかどケア推進会議

(2015年6月22日、9月17日、11月4日、2016年1月18日)

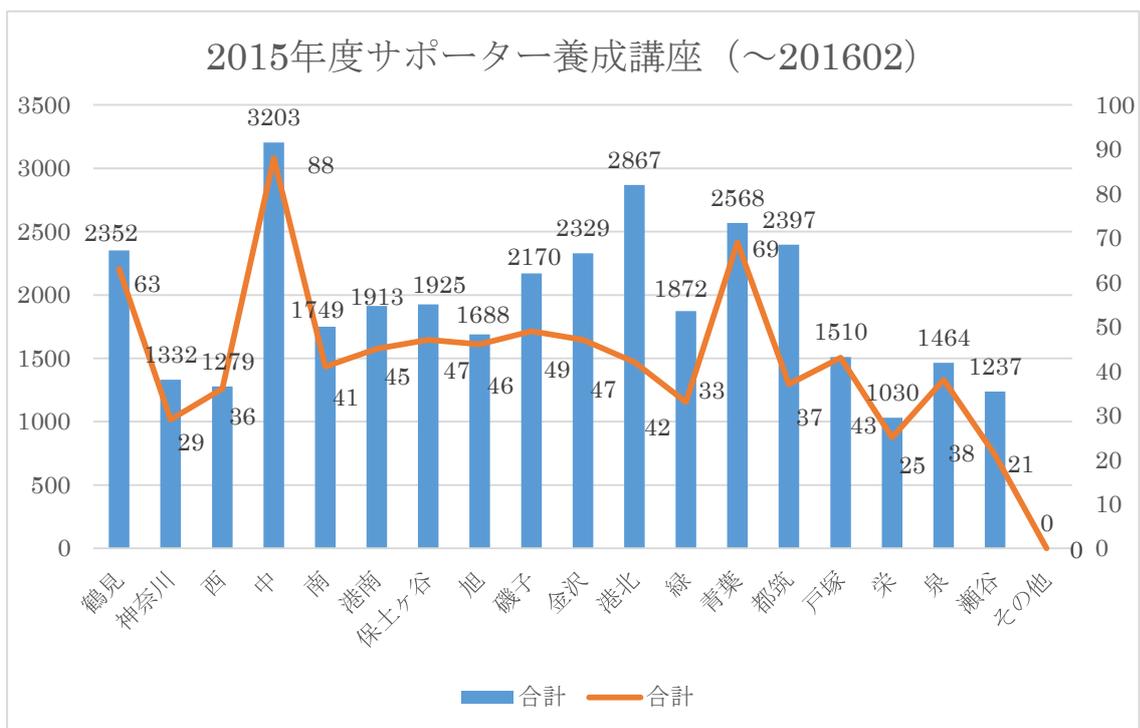
- ・一般向けキャラバン・メイト養成研修

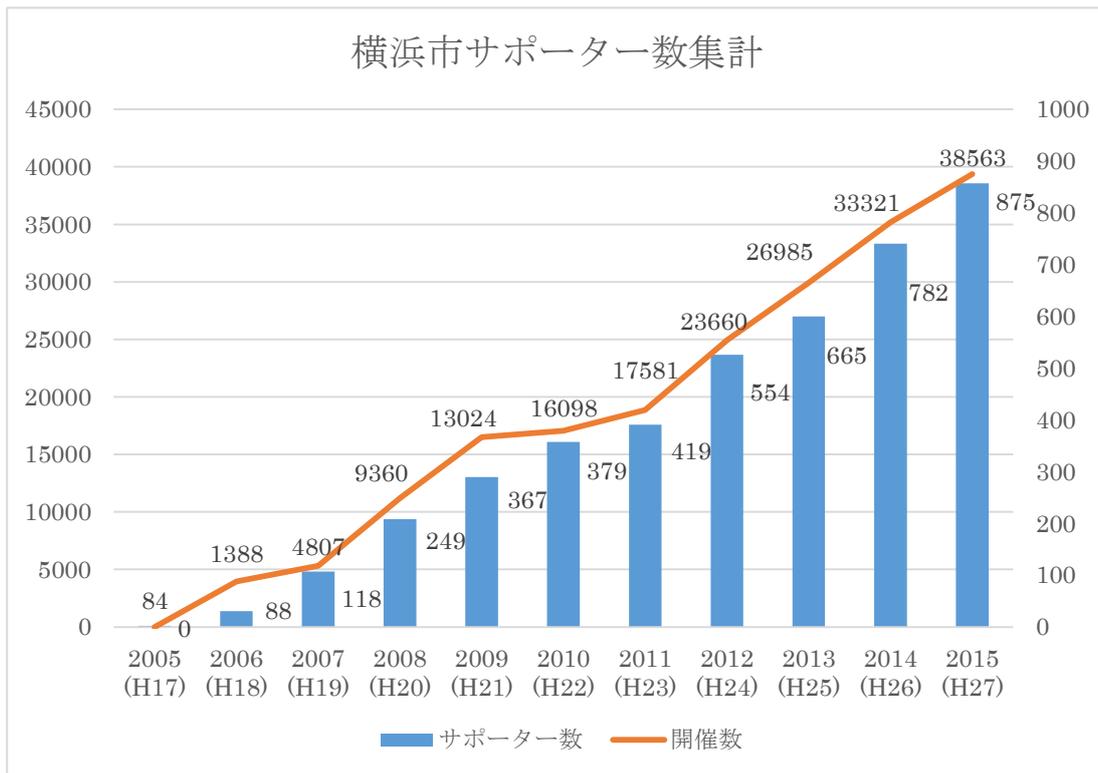
(2015年7月30日、9月15日、10月15日)



- 横浜市認知症キャラバン・メイト ステップアップ講座 (2016年2月3日)
 - 【全体会】講演『つながることで見えてくる！これからのキャラバン・メイトとサポーターの役割』
かまくら認知症ネットワーク・ケアサロンさくら 稲田 秀樹氏
 - 【分科会】①始まっています！認知症カフェ
②サポーター養成は講座だけじゃない！出会うことから始まる第一歩！
③もう一度チャレンジ！認知症サポーター講座
 - 【展示】サポーター講座のグッズ紹介&パネル展示
 - 【その他】個別相談会、交流コーナー

• 横浜市版認知症サポーター ガイドブックの完成





■ 第三者評価事業

- 福祉サービス第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業
- 障がい者保養施設宿泊モニタリング

成果と課題

● 成果（経緯）

福祉サービス第三者評価は、残念ながら障がい分野・高齢分野での案件はありませんでしたが、保育分野で7件を実施しました。そのうち2件は5年前にセクターの評価を受けた園でしたが、ほか5件は、他園からセクターがよいと勧められたなど、評判を聞いて依頼頂いた園です。問い合わせは多く頂きましたが、対応可能限度を超えるため、当会から独立した評価機関を紹介させていただきました。

● 課題

障がい分野は横浜市全体でも案件がほとんどなく、高齢分野も少ないのが現状です。福祉サービスの中でも保育に目が行きがちな横浜市の昨今にあって、サービスの質の向上のために障がいや高齢施設で第三者評価を実施してもらうために、どうやってニーズを掘り起こすか検討課題と考えます。

<福祉サービス第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業>

福祉サービスの質の向上のために、横浜市の評価基準を使用して福祉施設の評価を行いました。評価の結果は公表するとともに、事業者（施設）との対話の中から、次のステップへの「気づき」が生まれることを目指しました。

【評価完了案件（順不同）】

分野	施設名	運営主体	所在地
保育	新山下二丁目保育園	社会福祉法人神奈川匡会	中区
	白梅いずみ保育園	社会福祉法人白梅福祉会	泉区
	横浜市大久保保育園	横浜市	港南区
	横浜市山手保育園	横浜市	中区
	福澤保育センター	社会福祉法人久遠園	緑区
	鶴見ポケット保育園	有限会社KBC	鶴見区
	あっぷる保育園鶴ヶ峰	社会福祉法人東京愛成会	旭区

※指定管理者第三者評価は、今年度は実施なし。

<障がい者保養施設宿泊モニタリング>

障がいのある方にとって、生活の質（QOL）の向上を図る上で、「障がいのある方とその家族が安心してご利用いただけるくつろぎの空間」（パンフレット・HPより）である当該施設存在は、地域社会の貴重な社会資源です。当該施設には、宿泊施設としての機能のほか、研修やレクリエーションなどを行う設備もあり、障がい者及び障がい教育・障がい福祉等の関係機関への周知が行き届き活用への意識が広がることは、施設の社会資源としての価値がより向上すると思われまます。

昨年に引き続き、横浜移動サービス協議会にモニタリング調査を依頼し、障害ある方が、一人で、またはヘルパー同行で、またはグループでと3回に分けて実施されました。障がい当事者、家族が安心して利用することができる施設として、また障がい者がより活発な社会的活動をしていくために有効な施設として更に向上するよう、様々な意見をまとめ報告しました。

また、より地域社会に貢献できる施設として、障がいのある方と一般の方が親しめる企画（例えば施設祭り）を施設と共に考えてほしいと要望を受けましたが、残念ながら実施に至っていません。次年度は新任あゆみ荘所長と新たに関係構築をしていく中で、モニタリング調査とともに、社会資源としての施設活用に協力していきます。

■ ヨコハマ市民まち普請事業

(横浜市都市整備局地域まちづくり課、横浜市指定 NPO 法人アクションポ-ト横浜との協働事業)

ヨコハマ市民まち普請事業の協働事務局運営

成果と課題

● 成果（経緯）

横浜市指定 NPO 法人アクションポ-ト横浜、横浜市都市整備局地域まちづくり課との三者による協働運営は 7 年目に入りました。今年度、当法人では、主に、コンテストの運営補助（記録、設営・備品）および広報を行いました。とくに、事業の周知では、横浜市市民活動支援センターを管理運営している立場から、区の市民活動支援センター職員が集う研修の場で、事業紹介の機会をつくりました。

● 課題

まち普請事業では、2015 年度から企業マッチングの取り組みが始まり、企業との連携を通じて成果を上げる整備箇所も見られるなど、市内におけるまちづくりの実践が積みあがってきました。今後も、市民主体のまちづくりにつながる制度として、多くの市民がチャレンジできるよう、事業の周知方法や、コンテストの実施方法等について検討を続けていくことが課題です。

事業の概要と実施したこと

「私たちのまちを、私たちがつくる！」そんな思いをカタチにするための地域協働のきっかけづくりとなる事業です。身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2回の公開コンテストで選考された提案に対して最高 500 万円の整備助成金が交付されます。

◆ 公開 1 次コンテスト

【日時】2015 年 7 月 4 日（土） 【会場】西地区センター体育室

9 グループからの提案のうち、4 グループが 2 次コンテスト対象提案として選考されました。

◆ 公開 2 次コンテスト

【日時】2016 年 1 月 31 日（日） 【会場】横浜市市民活動支援センター 4 階

公開コンテストの結果、以下の 3 提案が整備助成対象提案として決定しました。

提案名	グループ名
【泉区】 湧水を住民のいこいの場に！子どもたちに自然体験を！	下和泉湧水を守る会
【金沢区】 住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり	六浦東・まち交流ステーション委員会
【都筑区】 東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置	つづきっず、はい！

※ コンテスト業務のほか、まち普請事業部会や関連イベント（活動懇談会／企業マッチング会、H26 整備成果報告会／まちづくりフォーラム）に参加しました。

■ コミュニティづくり支援事業

成果と課題

(1) 持続可能な住宅地モデルプロジェクト（磯子区洋光台周辺地区）「(仮称)まちの事務局」づくりに向けた運営体制等検討業務委託（横浜市建築局委託事業）

● 成果（経緯）

市民活動団体の参画による CC ラボの活用に向けて、UR や建築局等との会議に参加しました。中間支援の分野における市民活動団体の立場から、NPO が拠点を運営するうえで必要とされる経費や人員等に関する情報提供や、協働でプロジェクトを進めていくにあたってのコーディネートを行いました。

● 課題

住民が地域の拠点として CC ラボ（まちの事務局）を活用していくために、どのような機能や場が求められているのかを、洋光台地区のまちの将来ビジョンの中で考えるとともに、「まちの事務局」づくりに向けて、協働で計画的にプロジェクトを進めていく必要があります。

(2) 第3期都筑区地域福祉保健計画策定補助業務受託（委託事業）

● 成果（経緯）

地域福祉保健計画策定に関して、昨年度同様に職員 4 人がそれぞれ地区を 1～2 担当したことで、現場のニーズ、地域の個性や状況（声）を深く聴くことができました。

また、区域の計画、地区別の計画についてまとめた冊子については、できるだけ楽しく読みやすく、またわかりやすくを心がけ、積極的にアイデアを出すことが出来ました。

計画で出した目標をどのように実現していくか、その補助となるよう「5YEARS NOTE」を作成しました。

● 課題

地域活動を行う方々にとっては、NPO 法人はなじみの薄い存在ですので、できるだけ違和感を感じさせないように、留意して関わっていく必要がありました。

また、職員 4 人がそれぞれ地区を 1～2 担当して関わっていますが、地区ごとに個性があり、手探りしながら、サポート役を務めていた状況でした。今後の関わりの中でさらに経験を積んでいきたいと考えます。

(3) スタディツアー（企業・NPO 編） ※神奈川県 NPO 協働推進課との協働事業

● 成果（経緯）

神奈川県が実施しているパートナーシップ支援事業の一環として実施された事業、バスツアー形式で、地域貢献活動に取り組む企業、企業や大学との協働事業に取り組む NPO を訪問しました。

参加された方は、既に活動に関わっている方が多く、各訪問先での実践報告やディスカッションを通じて今後に向けたヒントを得るとともに、一日行動をとることにしたことで、参加者同士の交流を図ることもできました。

● 課題

今後は、パートナーシップ支援事業として実施している他の事業（パートナーシップミーティング等）との連動を図り、支援事業を通じてNPO・企業・大学による協働を推進していくことが課題と考えられる。

事業の概要と実施したこと

(1) 持続可能な住宅地モデルプロジェクト（磯子区洋光台周辺地区）「(仮称)まちの事務局」づくりに向けた運営体制等検討業務委託（横浜市建築局委託事業）

CC ラボを活用した「まちの事務局」づくりについて検討する場に参加し、拠点運営や市民活動支援等に関する情報提供や事前のコーディネートを行いました。

(2) 第3期都筑区地域福祉保健計画策定補助業務受託（委託事業）

① 第3期福祉保健計画作成補助

② 地区別計画作成補助

地域に関わる事業について分析業務

75 事業の視覚的整理資料、地区別冊子案を作成。

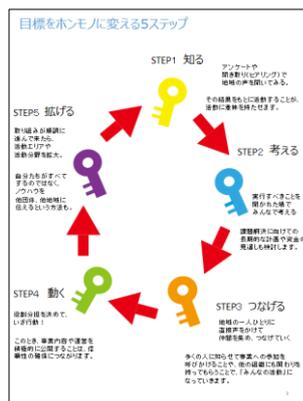
③ 5YEARS NOTE の作成

地区計画推進応援冊子として、5 イヤーズノート試作版を作成しました。

このノートは、第3期地域福祉保健計画（2016年～2020年）でたてた目標を、5年間でどのように実現していくか（していったか）を記録するものです。

「わがまち自慢の活動」は、誰もが参加できる活動をメモしておくことで、地域の人に紹介する時に役立ったり、5年間でどれだけの活動が増えたか（新しく立ち上がったか）が分かるようになっていきます。

定期的に目標を見返し、また、日々の地域での取り組みなどを記録に残すことで、5年後の計画の見直しの際、簡単に振り返ることができます。



(3) スタディツアー（企業・NPO 編）

【日時】2016年2月25日（木）9：45～16：30

【訪問先】株式会社安藤建設（横浜市磯子区）
NPO 法人 I Love つづき（横浜市都筑区）

【参加者】16名（市民活動団体9名、企業関係者4名、個人3名）

【プログラム】

訪問先1：株式会社安藤建設（会場：株式会社安藤建設事務所、横浜市磯子区）

<ul style="list-style-type: none"> ● インターン生による活動紹介 ● ワーク（印象に残ったことや質問を参加者同士で共有） ● 質疑応答 	<p>短期・長期インターン生から、ウメニープロジェクトやエコリノベーションの取組を紹介いただきました。</p> <p>「ウメニー」は、杉田小学校の生徒の発案で生まれたご当地キャラクターで、インターン生が杉田小学校の生徒たちと関わりながら、キャラクターの商標登録に向けた取り組みや商店街活性化のためのスタンプラリーが行われてきています。</p> <p>企業におけるインターン生の受入や学生らによる自主的な取組みが、参加者の関心を集めていました。</p>
---	---

訪問先2：NPO法人 I Love つづき（会場：シェアリーカフェ、横浜市都筑区）

プログラム	内容
<ul style="list-style-type: none"> ● ランチ交流会 ● 岩室理事長による活動紹介 ● 質疑応答 ● ワーク（印象に残ったことや、事例を踏まえて考えた今後のプランを共有） ● 参加者同士による名刺交換会 	<p>NPO法人 I Love つづきが運営しているシェアリーカフェを訪問して、ランチ交流タイムの後、理事長の岩室晶子さんから活動を紹介いただきました。</p> <p>「ほぼ全ての事業を協働で取り組む」「まちの環境をよくすることを目指して、防災や福祉、子育て支援など、多分野のテーマに取り組む」などの特徴がある当法人。</p> <p>自分たちが生活する地域を‘知る・調べる’ことでまちが変わっていった事例や協働の取組み事例を聞き、企業や行政、大学等と協働で取り組みを進めていくうえでのポイントなどを学びました。</p>

■ 法人ホームページをリニューアルしました。

多岐にわたる事業（プロジェクト）を整理し、「5つの柱」に分けました。

1. 地域コミュニティの活動支援事業
2. NPO 法人・市民活動支援
3. 市民の目を活かした評価事業
4. 調査・研究・政策提言事業
5. クロスセクター事業

初めて法人 HP に訪れた方が迷わないよう「市民の皆さまへ」「自治体の皆さまへ」「企業の皆さまへ」という窓口を作りました。



事業担当スタッフが HP を更新し、Facebook と連動することで多くの方に最新の情報を届ける事ができます。役員・職員の顔が見える工夫として、顔写真とプロフィールを掲載しました。



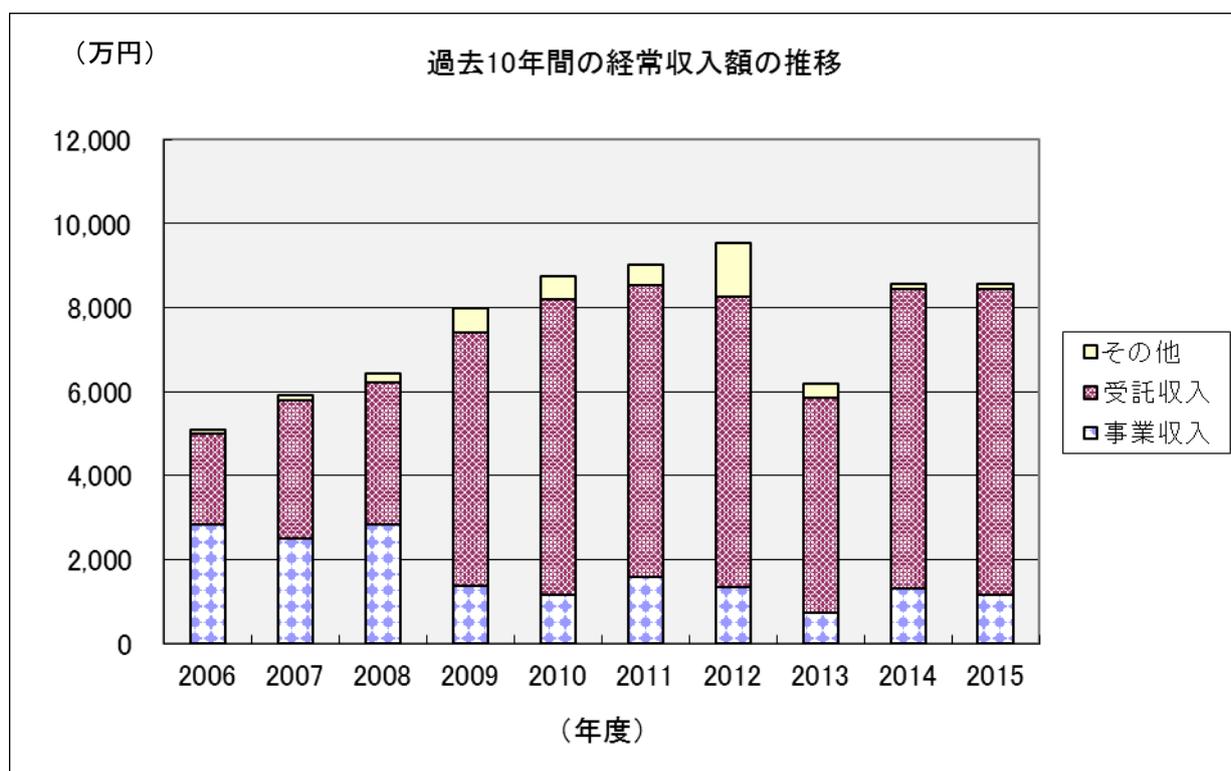
資料編

(1) 会員数の推移

	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15
合計	102	136	141	125	176	145	184	195	216	204	192	186	196	193	150	147	146	138

- ※ 1998年度は9月時点の数値、それ以外は各年度末（3月末）の数値です。
- ※ 正会員・準会員・賛助会員を合計した数値です。
- ※ 数年以上会費納入のない会員について、2012年度に整理作業を実施しました。

(2) 収入額の推移と内訳



- ※ 受託収入＝行政からの委託事業（行政との協働事業）
- ※ その他＝会費収入・助成金収入・寄付金収入など
- ※ 借入金収入や前期繰越金は含めていない
- ※ 2013年度、第2事業部が独立

(3) 市民セクターよこはま 沿革

1998.7	「市民セクター構築のための研究会」発足
1999.9	市民セクターよこはま 設立 (9/28) 横浜ワールドポーターズに店舗兼事務所「こらぼ」開設
1999.12	横浜市への要望書提出「新しい公共の創造へ向けて」
2000.1	配食サービス連絡会発足
2000.9	横浜移動サービス協議会発足 (移動プロジェクトより独立)
2001.7	デイサービス・サロン連絡会、事業型 NPO 連絡会発足
2002.2	横浜ワールドポーターズに「NPO スクエア」開設 同所に事務所移転
2002.7	NPO マネジメント支援プロジェクト発足 (～2005.9)
2002.10	横浜市市民活動共同オフィスの管理運営を受託 (～2009.3) 協働のありかた研究会参画
2003.4	NPO 法人「市民セクターよこはま」設立・登記 (認証 4/1) 精神保健連絡会発足
2003.5	設立総会、NPO 法人設立記念パーティ
2004.5	理事長松本和子退任、服部一弘就任
2004.7	横浜会議で研究テーマを提案、採択される 『暮らしを支える生活術マトリクスモデル』作成と市民力を活かした新システムの研究』
2004.8	認知症ケアマネジメント推進事業開始 訪問介護員養成研修 1 級課程 開始 (～2005.11)
2004.11	事務局内に評価事業部設置、福祉サービス第三者評価事業開始
2005.6	地域福祉コーディネーター養成研修開始
2005.8	NPO 等に対する相談・アドバイス事業開始 (～2008.3)
2006.5	「介護サービス情報の公表」に係わる調査事業開始 (～2009.3)
2006.12	理事長服部一弘退任、松本和子就任
2007.1	横浜市指定管理者第三者評価事業開始
2007.10	コミュニティビジネス支援事業開始
2007.11	横浜市中区住吉町 (関内) に事務所移転 地縁型組織とテーマ型組織の協働モデル事業開始
2008.5	理事長松本和子退任、中野しずよ就任
2008.7	区役所窓口サービス向上支援事業開始 (～2010.3)
2009.4	組織改編 (事業ユニット制の導入)
2009.5	定額給付金の代理受領および横浜市への寄附手続き開始 (～2009.11)
2009.7	横浜市市民活動支援センター運営開始
2012.7	認定特定非営利活動法人 (認定 NPO 法人) として国税庁より認定
2013.4	横浜市中区太田町 (馬車道) に事務所移転
2014.4	横浜市市民活動支援センター運営 (2 期目) にしく市民活動支援センター運営開始

(4) 2015年度の役員・事務局スタッフ

● 役員（理事・監事）

理事長	中野 しずよ
副理事長	泉 一弘(～2015.7)、竹谷 康生
理事	石井 大一郎、井上 義臣 (2015.6～)、加世田 恵美子 齋藤 保、松本 道雄 (2015.6～)、山野上 啓子、吉原 明香
監事	西尾 敦史、横山 悠

● 事務局スタッフ

常勤・非常勤 アルバイト	吉原 明香（事務局長） 加世田 恵美子、東樹 康雅(～2016.3)、樋山 麻子、薄井 智洋、関尾 潤、 松田 香、宮澤 勝子(2015.7～)、飯作 竜一（2015.7～2015.12）、 山田 素子(2016.3～) 落合 貴美恵、松原 優佳、内田 智美、井上 昌子（2015.9～2016.1）今 村 理恵子(2015.10～) 村上 万麗子、山田 安奈（～2015.6） 大河原 正人、神田 廣志、田中 田人、撞井 静雄 原田 姫子、村田 育男、山岸 公江（～2015.5）
ボランティア スタッフ	勝田 泰輔、山戸 一弥、井川 貢、杉浦 博孝